

大学の地域連携教育に関する研究会報告

別府大学文学部人間関係学科

教授 大嶋美智子

平成18年2月25・26日、日本福祉大学において「大学の地域連携教育に関する研究会」が開催された。別府大学地域社会研究センターより、秋田清先生、富吉素子先生、三城大介先生と私の4名が参加した。

これまで、本センターと日本福祉大学の知多半島総合研究所とは交流があり、ともに、現代の大学と地域社会について実践的研究を行ってきた。そうした経緯の中で、日本福祉大学が同じように地域連携・地域貢献の取り組みを進めている大学に呼びかけ、別府大学、松本大学、作新学院大学、熊本学園大学との5大学による研究会が開かれる運びとなり、24名が参加した。

研究会プログラム

第1日	
13:00	日本福祉大学現代GP プロジェクトポスター紹介
13:30	生涯学習シンポジウム見学
14:00	5大学による研究会 ・研究会主旨説明 ・事例報告 ・討議
18:30	フリーディスカッション
第2日	
半田市自由散歩	

研究会の事例報告では、5人がそれぞれの大学における取り組みと意見を述べた。

最初に、日本福祉大学の現代GP推進室長、斉藤友之先生より、人間福祉総合系大学として4学部8学科が現在取り組んでいるプロジェクトの紹介があった。

続いて、別府大学から本センターの所長である秋田先生が報告し、地域社会と大学という視点から意見を述べた。別府大学で地域社会研究センター（1998年）と人間関係学科（2000年）を立ち上げた経緯を説明し、現状報告と問題提起を行った。

3番目に松本大学の白戸洋先生の報告があった。大学としては新しく今年が完成年度の大学、長野県と松本市と松商学園が資金を出し合ってきた地方小規模大学である。ただ、前身の松商学園は100年を超える歴史があり、短大も50年余続いている。しかも、松商学園は同窓会が経営母体となっている。そうした背景のなかで、「長野県で子どもを育て長野県に還す取り組み」が報告された。

4番目は作新学園大学の片岡豊先生の報告であった。同大学も栃木県ではもっとも古い私学で120年の歴史を持ち、地域で求められる大学のあり方を模索し、2002年度人間文化部長官表彰を受けた大学である。

最後に日本福祉大学の西山敦士先生が名古屋に新しくできたセントレア空港の利用調査を学生と行った事例が報告された。

事例報告とその後の討議を含め、私たち大学人が社会的責任として果たさなくてはならない、新しい学問と大学のありを問われる研究会であった。

